

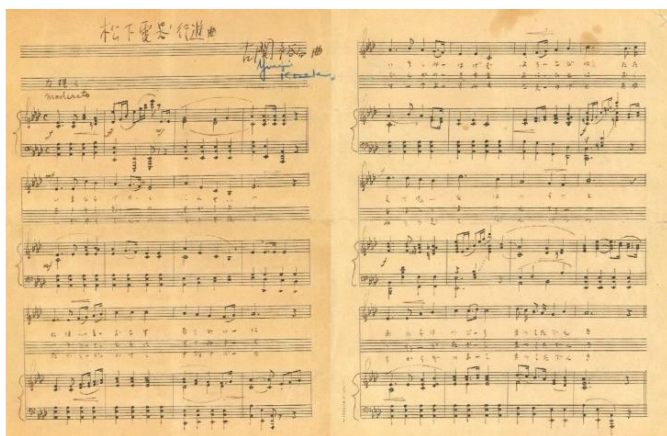
# ここにも古関メロディーが よみがえる松下電器行進曲

「なにとぞ永くご愛唱くださいますよう、作曲者としてお願いいたします」。こう記された手紙が、松下電器行進曲『月日とともに』のピアノ伴奏譜とともに届いたのは1951年6月のこと。送り主は、連続テレビ小説「エール」のモデル、古関裕而さんでした。

この年、松下電器は終戦から5年を経て本格的な再建に着手。この上昇の機運をさらに盛り上げようと、新生の歌を行進曲のスタイルでつくる企画が持ち上がります。そして、まず社内公募で歌詞が選ばれ、それに古関さんが明るく力強い旋律をつけてくださったのです。この歌は、翌年から全国の事業場で夕会時に斉唱されるようになり、それが50年以上続きました。数ある古関メロディーのなかでも、これほど永く、しかも毎日歌われた歌は、そうはないでしょう。

7月23日(木)より運営を再開した松下幸之助歴史館ライブラリーでは、70年近く前に古関さんから届いたピアノ伴奏譜を特別展示しています。この機会にぜひお越しください。

**展示期間** 2020年7月23日(木曜日)～2020年10月31日(土曜日)



## 古関裕而 氏 (1909～1989)

古関さんは生涯に5000もの楽曲を世に送り出しました。そのメロディーは、だれもが一度は耳にしたことがあるはず。とりわけ十八番の応援歌や行進曲は名高い旋律のオンパレードで、あの『六甲おろし』や対する巨人の『闘魂こめて』、夏の甲子園の大会歌や早稲田と慶応それぞれの応援歌も、そして東京五輪(1964)の『オリンピックマーチ』も、みんな古関さんの作品です。また、校歌や社歌も数多く手がけ、当社に関しては『松下電器行進曲』の他にも、1956年に『松下電器応援歌』を作曲してくださいました。